

第3学年3学級 音楽科学習指導案

指導者 安藤 朗 広

1 単元 ことばにぴったりのメロディーにのせて 知ってもらおう みんなの附属小

2 目標

- ・「附属岡崎小学校」ということばに合わせて旋律をつくるなかで、ことばのリズムや抑揚に目を向けて短い旋律をつくることのできる子どもにしたい。
- ・ つくった旋律を仲間とうたい合い、ことばに合ったリズムや音の動き方のおもしろさを感じ取っていく活動を通して、音楽の歌詞や旋律の動きに着目しながら音楽に親しむことのできる子どもにしたい。

3 子どもをとらえる

仲間とかかわることが大好きな3年3学級の子どもたち。〇〇は〇〇と一緒に一輪車を練習し、「次は手放しでできるようになりたい」と生活日記につづった。ものごとに取り組む際、着実な進歩に目を向けるとともに、具体的な目標をもって挑戦しようとする様子が見えてくる。朝の会でお便りが配られると、「これ、見たことあるよ」と楽しそうに仲間と談笑する△△や△△。自分の気づきを仲間に伝え、反応してもらったり、一緒に笑って感情を共有することによさを感じているのだろう。

27曲から掃除の時間に合うBGMを考えた1学期実践。実践のまとめに□□は「一つ一つの曲に明るい曲、低い音の曲、速い曲などの区別が分かった」とつづった。様々な曲をテンポや音の高さといった音楽を形づくっている要素の視点から見つめ、音楽の特徴を感じ取ることができている。このような子どもたちだからこそ、目標をもって作品をつくるなかで、うたい合ったり聴き合ったりしてそのおもしろさを共有していくことを通して、音楽的な感性を豊かにしていってほしいと考えた。

4 教材を選定する

子どもたちへの願いを具現するため、「ことばに合うサウンドロゴづくり」を教材に選定した。本教材には次のような教材性があると考えた。

- ・ 音の高さやリズム、テンポを工夫しながら短い旋律をつくる活動を通して、自分の表現したい思いと音楽を形づくっている要素を関連づけていくことで、音楽的な感性を豊かにしていくことができる。
- ・ 様々なCMのサウンドロゴの音数の少なさや、短く気軽に楽しめるといったよさに気づいたところで、附属小のホームページの物足りなさを考えることで、「みんなの耳に残る附属小のメロディーをつくりたいな」という問いが生まれ、追求していくことができる。
- ・ みんなの耳に残るメロディーは、うたいやすく、覚えやすいキャッチーなものがよいことに気づき、自分でうたったり、仲間とうたってもらったりしながら、旋律を変化させることを楽しみながら工夫を凝らしていくことができる。

5 追求を見通す

CMのサウンドロゴを聴いたり演奏したりした子どもたちは、少ない音でも音の動き方やリズムによって印象に残ってしまうことによさを感じるだろう。短い旋律で伝えるおもしろさを感じている子どもたちに附属小のホームページを見せることで、音がないことの物足りなさを感じ、自分たちで附属小のホームページで流す音をつくってみたいと、聴き手の印象に残るような旋律づくりに取り組んでいこう。旋律をつくる際には、リズムや音の動きを意識できるように、パソコンを用いて創作していく。実際につくってみて、どんな旋律にしたいかという思いをもちはじめたタイミングで、問いを生むかわり合いを設定する。附属小のよさを伝えたい、聴き手が楽しめる旋律にしたいという意識をかかわらせることで、「みんなの耳に残る附属小のメロディーをつくりたい」という問いをもって、追求に向かっているだろう。

問いをもった子どもたちは、旋律に規則性をもたせたり、印象に残るようなリズムを考えたりしていこう。また、元気のよい学校、楽しい学校というイメージから音の高さを工夫したりしていこう。自分なりの旋律が完成したところで、自分と仲間のつくった旋律をうたい合い、録音し合う時間を設定する。実際にうたってもらうことで、自分の旋律のうたいにくさや、仲間の旋律のおもしろさに気づいていこう。そこで、追求を見直すかわり合いを設定する。リズムや音の高さの工夫といった音楽を形づくっている要素をもとに、録音や楽譜と関連づけながらどのような旋律が楽しく伝えるのかについて伝え合うことで、リズムや旋律の変化に目を向けて、そのおもしろさに気づいていく姿を引き出せるようにする。

何度もうたい合い、つくった旋律を、実際のCMにのせてペアや家族に聴いてもらう場を設定する。つくったサウンドロゴを聴いてもらい、感想を尋ねることで、音にのせた自分の意図が伝わった喜びを感じることができよう。そのような自分たちの追求のよさを感じたタイミングで、核心に迫るかわり合いを設定する。ここでは、自分たちの工夫を振り返るとともに、他者からの評価を得て感じたことを伝え合うことで、音楽の工夫が他者を喜ばせることにつながったと自己の成長を感じられるようにしたい。また、サウンドロゴづくりを通して、リズムや旋律の動きといった観点から音楽を見ることのよさを振り返り、音楽を様々な視点から見つめ、その音楽に対するよさを自分なりに見いだしていく姿を期待する。